

公益社団法人日本看護科学学会 平成29年12月社員総会 議事録

日 時：平成29年（2017年）12月15日（金）17：00～19：00

場 所：TKP ガーデンシティ仙台 21階 ホール 21CD

（宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1 TEL:022-200-2611）

総社員数：264名

出席社員数：215名（会場 77名、委任状 138名）

会場出席社員：青木きよ子、荒尾晴恵、石井邦子、泉キヨ子、岩永喜久子、植田喜久子、上野栄一、浦田秀子、江川幸二、遠藤俊子、遠藤みどり、遠藤芳子、大津廣子、大塚真理子、嘉手苺英子、河口てる子、河原宣子、神田清子、北村愛子、荃津智子、工藤せい子、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、小林康江、佐藤紀子、佐藤富美子、佐藤正美、佐藤禮子、清水嘉子、新道幸恵、鈴木久美、鈴木純恵、滝内隆子、武田利明、田中京子、田中美智子、谷本真理子、津島ひろ江、長江弘子、中村恵子、中村美鈴、檜木野裕美、任 和子、野地有子、籟持知恵子、東サトエ、平松知子、藤田君支、法橋尚宏、堀内成子、本庄恵子、眞壁玲子、牧野智恵、松浦和代、百瀬由美子、森 菊子、守田美奈子、吉沢豊予子、吉田俊子、吉田みつ子、良村貞子、日高艶子、朝倉京子（以上63名・50音順）

出席名誉会員：近藤潤子

出席理事・監事：鎌倉やよい、山本則子、秋元典子、石橋みゆき、江藤宏美、小山真理子、（うち14名社員）佐伯由香、真田弘美、須釜淳子、高田早苗、田中真琴、中山洋子、西村ユミ、宮下美香、村嶋幸代（以上理事）、南 裕子（監事）

議長：鎌倉やよい（理事長）

議事録作成者：田中真琴（総務担当理事）

I. 開 会

開会時、会場出席者数56名（うち理事・監事14名）、有効委任状138名、総計194名であり、全代議員264名の過半数であるため、定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会の平成29年12月社員総会は成立した。司会は山本則子副理事長、書記は丹治史也（東北大学大学院）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会）で行なわれた。

II. 理事長挨拶

鎌倉やよい理事長より、以下の挨拶があった。

今年は理事長に就任して1年目の年であったが、その中で、JANSがどこへ向かっていく学会なのかを明確にする必要があると考え、理事会で検討してきた。JANSの目的と機能に関して、ナーシング・サイエンスを構築し、日本の社会と国際社会に貢献していくことが1番の目的である。そのための大きな事業が和文誌・英文誌の発行、学術集会の開催である。他の事業として、若手育成、看護用語の標準化など、事業についてまとめた図を理事長挨拶としてホームページに掲載している。理事会の組織を明確に外に出せるように組織化し、整理している。

今回の学術集会は、東北大学の吉沢先生のご尽力により、新たな企画も盛り込むなど興味深く、充実した内容になっている。ぜひ、参加いただきたいと思う。

なお、JANS がナーシング・サイエンスを構築していくという役割に向かうことを考え、新たな委員会として看護ケア開発・標準化委員会を発足し、ガイドラインを出すための事業を進めている。今後は一つ一つ社員である皆様にご報告しながら共にナーシング・サイエンスを深め、進めていきたい。

III. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

吉沢豊予子学術集会会長より、以下の挨拶があった。

これまで学術集会の準備に尽力してきたが、学術集会が始まってみると色々な事が出てくるかもしれない。その際には皆様にご容赦いただき、一緒に学術集会を盛り上げていただきたいと思います。

仙台は、週明けは寒波に襲われ、初積雪が観測され不安を感じていたが、今日は暖かくなり、明日・明後日の学術集会でも天気はもつと思う。遠方から来ている方もいるが、風邪などを引かないよう、寒さに慣れて楽しんでいただきたいと思います。

明日は会長講演、基調講演があり、基調講演の演者であるAzita Emami先生も現地入りし、準備が整っている。ぜひ、皆様で学術集会に参加いただき盛り上げていただきたいと思います。

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款 22 条 3 項に従い、鎌倉理事長が議長に選出された。会場出席者から議事録署名人を募ったが立候補がなかったため、議長から代議員のグレッグ美鈴氏（神戸市看護大学）と本庄恵子氏（日本赤十字看護大学）の 2 名が推薦され、承認された。

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

1) 総務報告 <田中理事>

議案書（P.3）に基づき、以下の報告があった。

平成29年10月31日現在、正会員9,112名、名誉会員16名、賛助会員5件、会員総数9,133名である。議案書P.3の下部に記載した棒グラフは正会員数の推移であり、増加傾向である。

2) 理事会報告 <鎌倉理事長>

議案書（P.4～11）に基づき、理事会報告があった。

平成29年4月1日から12月15日までに理事会は合計で5回開催した。

平成29年度より、看護ケアへのエビデンスを確立するために看護ケア開発・標準化委員会を立ち上げた。また、これまで災害看護支援委員会は特別委員会として寄付による事業を展開していたが、事業を継続して実施していくために災害看護支援委員会を常設とした。

3) 委員会活動報告 <各理事>

議案書（P.12～14）に基づき、委員会活動報告があった。

総務委員会、和文誌編集委員会、英文誌編集委員会、研究・学術情報委員会、国際活動推進委員会、看護学学術用語検討委員会、看護倫理検討委員会、社会貢献委員会、表彰論文選考委員会、広報委員会、若手研究推進委員会、利益相反委員会、研究倫理審査委員会の各活動内容が読み上げられ、他機関との連携活動実績および選挙管理委員会について報告された。

なお、国際活動推進委員会の活動報告では、平成29年12月31日で世界看護科学学会・理事長の任期を終了される南裕子監事より以下の挨拶があった。

世界看護科学学会（WANS）を立ち上げて10年が経過した。WANS立上げの背景には、JANSが国際学術集会を行っていたが、組織上国内だけで行うのは、国際学術集会といえないので

はないかという批判があったこと、WANSが立ち上がるまでは世界には組織的な看護の学術団体は存在しなかったため、複数の看護系学術団体とともにWANSを立ち上げた。未だ問題も抱えてはいるが、将来的に国際的な学術団体の中に位置づけられるような学会になるように、これまで活動できた。鎌倉理事長や理事の皆様方はじめ、国際活動推進委員会の皆様、JANSの皆様のお支えがあり、これまで活動していただくことができた。

10年間、理事長を務めさせていただきましたことに感謝申し上げますとともに、皆様のご支援に感謝申し上げます。

【質疑応答】

質問（グレッグ社員）：英文誌編集委員会の若手研究者支援事業について、2016年度は投稿がなかったが、2017年度は2件の投稿があり、1件は条件を満たさず、もう1件は審査の結果、支援が可能な状況ではないということになっていたと思うので、ご確認いただき修正をいただきたい。

回答（鎌倉理事長）：今の指摘に沿って担当委員会に確認し、修正させていただきます。

VI. 審議事項

第1号議案 平成29年度事業計画変更案の承認について

議案書（P.18）に基づき、以下の事業計画変更案の説明と審議があった。

1) 看護ケア開発・標準化委員会 <真田理事>

これまでガイドラインはエビデンスを集めて吟味し、標準化していくというプロセスを辿っていたが、日本看護科学学会では新しい看護技術の開発も含めて標準化していくという、一歩進んだ方法を使用していく。現在のところ、誤嚥性肺炎予防のための看護技術の開発・標準化を行い、それをガイドラインに掲載するためにモデルを作成することを目標としている。誤嚥性肺炎予防のために最も重要な看護技術はアセスメント手法であると考えている。そのため、誤嚥性肺炎予防のためのアセスメント技術を開発しながら、エビデンスとしてガイドラインを作成することを目指す。

スコープ作成のためにシステマティックレビューを行い、素案を作成していく。また、委員会を2つ設けることが必須であり、統括委員会とガイドライン作成チームを設置した。最終的に外部委員を入れて評価することが必要である。

2) 災害看護支援委員会 <山本副理事長>

主に日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加することを中心とし、情報収集をはじめ、防災関連の活動を計画していく。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

第1号議案は原案通り、満場一致で承認された。

第2号議案 平成29年度補正予算案の承認

議案書（P.19～21）に基づき、以下の審議があった。

平成29年度二次補正収支予算書案（P.19～21）では、第1号議案の事業計画の変更により、以下の予算の補正を提案された。

- ①看護ケア開発・標準化委員会 448,000円
- ②災害看護支援委員会 200,000円

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

第2号議案は原案通り、満場一致で承認された。

第3号議案 平成30年度事業計画案の承認

議案書（P.22～25）に基づき、以下の審議があった。

1) 学術集会 <鎌倉理事長>

- ・第38回日本看護科学学会学術集会準備

学術集会会長：佐伯由香（愛媛大学）

日程：平成30年12月15日（土）・16日（日）

場所：ひめぎんホール

- ・第39回日本看護科学学会学術集会準備

学術集会会長：石垣和子（石川県立看護大学）

日程：平成31年11月30日（土）・12月1日（日）

場所：石川県立音楽堂

- ・第40回日本看護科学学会学術集会準備

後程、第5号議案にて審議する。

2) 総務委員会 <田中理事>

入会審査を行う。

会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービスの充実を目指す。

安定した事務所運営が可能な職員体制確立のため、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。各職員が現在の所掌業務に関するマニュアルを整備・見直すこと、現在の担当以外の仕事を経験する機会を設け、より一層の事務所機能の安定化、効率化を図る。事務所運営に関する課題発見のために月に1回訪問し、職員の向上心維持に努める。

3) 和文誌編集委員会 <秋元理事>

日本看護科学会誌第38巻を発行する。

査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質の向上を図る。

学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の投稿数増加を図る。

和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラムとして交流集会を開催する。

日本看護科学会誌への投稿に関する不正行為防止のためのガイドラインを作成する。

4) 英文誌編集委員会 <江藤理事>

Japan Journal of Nursing Science (JJNS) Vol.15を発行する。

JJNSセミナー2018を開催する。

JJNSプロモーション活動を展開する。

若手研究者支援事業を実施する。

5) 研究・学術情報委員会 <石橋理事>

Strategic Planの実行に向けた事業として、以下の活動を行う。

- ①看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の特定および研究推進の Strategic Planの設定報告書作成と会員への周知
- ②Strategic Planを実行するロードマップの作成
- ③研究者ネットワーク構築のために、各種セミナーを開催する
学術集会における国際シンポジウム、交流集会を開催する。

6) 国際活動推進委員会 <中山理事>

JANSホームページ内の「異文化看護データベース」の名称と内容を変更し、再構築することに取り組む。平成30年度での完成を目指す。

世界看護科学学会（WANS）の事務局として、平成30年度に開催する第6回学術集会の準備を進めるとともに、WANSの会員の拡大を図り、組織体制について検討する。また、WANS事務局としてホームページの充実、維持管理を行う。

JANS学術集会において交流集会を開催し、会員間の交流とネットワークづくりに取り組む。また、WANSの新たな理事長が決定し次第、皆様にご連絡する予定である。

7) 看護学学術用語検討委員会 <高田理事>

看護学を構成する重要な用語集を一部改訂するために、以下の検討を行う。

- ①一般社会や当事者との協働をふまえた用語の検討
- ②一般用語であっても、看護の視点・看護の哲学が反映されるような定義のあり方を検討
- ③看護実践を表す新しい用語の掘り起こし
- ④統一的使用より多様な研究活動を促進するような定義を検討

8) 看護倫理検討委員会 <佐伯理事>

研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。また、看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

9) 社会貢献委員会 <小山理事>

第38回学術集会に向け、社会貢献事業として市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェを開催する。また、JANSとしての社会貢献のあり方を検討する。

10) 表彰論文選考委員会 <真田理事>

選考方法も含めて、表彰論文の選考を行い公表する。

11) 広報委員会 <宮下理事>

学会広報媒体の作成・維持・管理として、以下の活動を行う。

- ①ホームページの維持・管理
- ②他委員会との連携による学会活動の広報
- ③学会活動やイベント学術集会の記録
- ④学会広報媒体の評価と改善

WANSに関連した広報活動として、以下の活動を行う。

①WANS学術集会の広報

②WANS学術集会におけるJANSの広報

学術集会に関する広報活動として、次回学術集会企画委員会、社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動を行う。

また、研究を実践へトランスレーションするための広報として、「看護研究の玉手箱」による表彰論文の紹介、JANS38における交流集会を開催する。

12) 若手研究推進委員会 <西村理事>

次年度の学術集会の交流集会、若手研究者のニーズに沿った研修を企画運営し、若手の研究活動推進に努める。

国内外の多様な学問分野における若手研究者との交流を図る方法を検討し、システムを作る。

「若手の会」専用のホームページ及びメーリングリストの管理・更新を通して、委員会の活動公表・周知のほか、若手研究者のニーズ把握、多様な学術分野の情報発信や情報交換、相互交流を行い、若手研究者の学際的な視点の涵養、研究発展の素地づくり、学び集う場の整備を促進する。

各地域で「若手の会」の活動を牽引する「エリア・コーディネーター」を育成し、若手研究者が各地域で活躍できる基盤をつくる。

13) 利益相反委員会 <小山理事>

役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象にCOIを実施し、評価を行う。また、利益相反における問題が生じた折の対処をする。

14) 研究倫理審査委員会 <山本副理事長>

申請があり次第、倫理審査を行う。その他、研究倫理審査に関わる事項の検討を行う。

15) 看護ケア開発・標準化委員会 <真田理事>

誤嚥性肺炎予防のためのアセスメント技術の開発とともに、システムティックレビューを行い、CQごとにレポートを作成する。また、推奨度を検討し、ガイドライン草案を作成する。

16) 災害看護支援委員会 <山本副理事長>

日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加する。

17) 他機関との連携

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

①日本看護系学会協議会 <山本副理事長>

②日本学術会議 <山本副理事長>

③看護系学会等社会保険連合 <石橋理事>

③については、委員会活動報告(P.16)に記載した内容について情報収集を行い、JANSから提案できることはないかをリサーチしていく。

18) 選挙管理委員会 <田中理事>

平成30年は選挙年ではないため、平成31年に代議員選挙の実施と役員候補者選挙準備を行う。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

第3号議案は原案通り、満場一致で承認された。

第4号議案 平成30年度予算案の承認 <村嶋理事>

議案書（P.26～31）に基づき、以下の審議があった。

平成30年度収支予算書案（P.26～29）の事業活動収支の部では、事業活動収入合計として144,629,000円、事業活動支出合計が143,999,000円、事業活動収支差額は630,000円の黒字を見込んでいる。

事業活動収入について、正会員会費収入は平成30年4月1日時点での会員数を9,000名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者400名と見積り、合計請求人数を9,450名として計上した。

また、賛助会員会費収入は、(株)日本看護協会出版会、(株)医学書院、(株)南江堂、(株)へるす出版、(有)ヌーヴェルヒロカワからの会費により30万円を計上した。学会誌収入は56万円を計上した。寄付金・助成金収入についてはWILEY（JJNS出版社）より著作者養成の取り組みに対する寄付金（値引き）として25万円を計上した。

雑収入については、5,551,000円を見込み計上、学術集会収入については、第38回学術集会の参加費収入、寄付金・助成金収入、広告販売収入、懇親会収入を見込み43,468,000円を計上した。以上から、事業活動収入合計額は144,629,000円を計上した。

事業活動支出について、事業費支出は82,358,000円、学会誌発行費支出に関して、和文誌については投稿論文数の増加によりオンライン査読システム使用料、編集事務費が値上がりしているため増額している。英文誌についても投稿論文数の増加により編集、出版料金等を増額している。この中には英文誌編集長への謝金として年間260万円を計上した。編集活動費支出のうち、和文誌編集委員会費支出において、委員の交代があったため旅費交通費を増額した。

看護学術振興費支出は、研究・学術情報委員会費支出において、第38回学術集会の交流集会に海外講師を招聘予定のため旅費交通費を増額している。また、国際活動推進委員会費支出については、WANSの開催年度ではないため旅費が減少した。看護ケア開発・標準化委員会は委員会の開催数増加に伴い増額を行っている。

社会的活動費は、広報委員会費支出（公益目的事業分）に関して、公益目的事業の市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェなどに携わる費用を事業費に計上、2017年度は委員会開催費（交通費）を管理費に計上していたが、委員会開催目的が主に公益目的事業であるため、2018年は事業費に計上したことにより増加している。また、次年度開催学術集会（石川県）については、準備金として300万円を計上した。

管理費支出のうち、旅費交通費支出については事務職員の出張に伴う交通費として、学術集会開催地が仙台から愛媛になるため増額している。消耗品費支出については、事務所内OA機器と備品の有効活用、事務用品使用の合理化などにより減額としている。

総務費支出であるが、選挙費用支出については代議員選挙、役員選挙に関わる費用を増額し計上した。よって、管理費支出の合計額は61,641,000円を計上した。

投資活動収支の部では、投資活動収入合計は5,108,000円、投資活動支出合計を2,690,000円として見込んで計上し、投資活動収支差額は2,418,000円の黒字となる予定である。財務活動収支の部の計上はなかった。予備費支出として300万円を見込み計上した。以上から、当期収支差額は48,000円であり、前期繰越収支差額と併せると、次期繰越収支差額は120,366,000円と見込まれる。

公益法人会計基準に則った平成30年度収支予算書案（P.30～31）では、公益目的事業・収益事業等と法人会計に割り振りしており、会費収入の配分を50対50になるように金額を分けて予算を作成している。なお、当期一般正味財産増減額は2,092,046円を見込んでいる。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

第4号議案は原案通り、満場一致で承認された。

第5号議案 第40回日本看護科学学会学術集会会長の承認 <鎌倉理事長>

議案書（P.32）に基づき、以下の審議があった。

第40回日本看護科学学会学術集会会長として萱間真美氏（聖路加国際大学）が推薦され、第5号議案は満場一致で承認された。

その他 <鎌倉理事長>

名誉会員である近藤潤子氏より、以下の挨拶があった。

会員の数が増え、活動内容も充実し本当に素晴らしいと、たいへん嬉しく思っている。これからもJANSの発展を楽しみにしているので、がんばっていただきたい。

会場からの意見と質問を受け付け、以下の質疑応答があった。

【質疑応答】

質問（新道社員）：和文誌の投稿数に関して、投稿数が116件に対して採択は45件であるが、この116件の中には、まだ査読をされておらず、これから採択される論文もあるのか。これに関連して、投稿論文の採択率はどのくらいか。また、採択されない論文とはどのような論文なのかを教えてください。

回答（秋元理事）：本日も報告させていただいた投稿数は2017年10月27日時点のものである。また、査読が続いている論文がいつ採択されるかはわからず、2016年に投稿された論文が2017年に採択される場合もある。そのため、実際の採択率を出すのは大変難しいことから、その年度に投稿された論文数と、同年度に採択された論文数で計算している。この116件の中にはまだ査読中の論文も含まれており、今後採択される可能性のある論文も多く含まれている。

これと関連した採択率に関しては、2、3ヶ月ごとに行われる理事会ごとにデータを更新し理事会に報告している。今現在、先ほど申し上げたような単純計算での採択率は、直近のもので38.8%となっている。委員会としては40%を目指しているが、ここ数年は30%台が続いている。また、不採択になる理由は、論旨の一貫性のなさであると個人的には考えている。その中でも最も大きな理由としては、目的に対して選んでいる方法、考察の不一致である。

また、統計的な手法の間違いといった理由もあるように感じている。不採択になる理由は和文誌編集委員会が最も把握しているため、それを活かした交流集会などを開催することも考えている。

回答（鎌倉理事長）：和文誌編集委員会は、委員長がJANS専属に値するほどの仕事量を抱えている。そのため、理事会ではその負担を分散できるようにしていきたいと考えている。実際は、J-Stageに掲載されるまでに、誤字・脱字の確認、様式の体裁を整えることなどに時間を要している。理事会、委員会としては、このようなことをわかりやすく図式化などをし、外部に発信していきたいと考えている。

質問（大津社員）：予算について、会費が未納となっている213名についての背景と、理事会としての未納者への対策についてお聞かせ願いたい。

回答（事務所担当）：概ね把握している理由として、学術集会に参加するために入会し、発表を終えると一定数が退会する意向をもってることが挙げられる。大体200人に満たないほどの退会がある。これらの方々に対する事務所の対応として、報告なしに退会を認めることはない。一定期間内に会費を納めていただくようお願いをしており、再請求、再々請求もさせていただいている。それでも中々お支払いいただけない方がいるというのが現状である。

回答（村嶋理事）：9,000名に対する200名は率にして2%程度である。一般的に他学会では納入率が95%あれば良いと言われているため、納入率としてJANSは良い方であると考えている。今回、納入率を記載していなかったが、例年95%は超えており、そのような状況であることをご理解いただければと思う。

鎌倉理事長：明日、学会総会を開催する。学会総会は従来だと社員総会と同じような形で開催してきた。学会総会でも審議事項や議決権を入れているが、学会総会での議決権は理事会に意見を具申する内容を議決するという事になっている。そのために委任状をいただきながら学会総会を開催している。意見を具申するための場であるため、どのようにして理事会が運営していこうとしているのかを示すために、学会総会の議案を今年度から大きく変えている。内容としては、理事長のビジョンと運営方針、委員会のミッションと展開などをわかりやすく皆様に示していきたいと考えている。明日の学会総会で皆様と意見交換ができれば嬉しく思うので、ぜひ出席いただきたい。

質問（堀内社員）：総務報告について、名誉会員の飯田氏と日野原氏が亡くなられたという報告がある。セミナーに出席していたため遅れての出席となったが、物故者への祈りなどは社員総会の冒頭に行われたのか。

回答（鎌倉理事）：この場で黙祷を捧げることはしなかった。明日の学会総会で黙祷を捧げたい。

以上で、会場からの質疑応答が終了した。

VII. 閉 会

閉会時、全代議員数264名の内、会場出席社員数77名、有効委任状138名、総計215名であることが報告された。

以上をもって、平成29年12月社員総会が閉会した。

平成30年 2月 9日

議 長 鎌倉 やよい ⑩



議事録署名人 グレック 美鈴 ⑩



議事録署名人 本庄 恵子 ⑩



公益社団法人日本看護科学学会 平成29年12月社員総会 議案書

日 時 平成 29 年 12 月 15 日（金） 17：00～19：30（予定）

場 所 TKP ガーデンシティ仙台 21 階 ホール 21CD

宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1 TEL: 022-200-2611

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 第37回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 平成29年度事業計画変更案の承認

第2号議案 平成29年度補正予算案の承認

第3号議案 平成30年度事業計画案の承認

第4号議案 平成30年度予算案の承認

第5号議案 第40回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉 会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 鎌倉やよい

副理事長 山本 則子

理事：秋元 典子、石橋みゆき、江藤 宏美、小山真理子、佐伯 由香、
真田 弘美、須釜 淳子、高田 早苗、田中 真琴、中山 洋子、
西村 ユミ、宮下 美香、村嶋 幸代
監事：阿曾 洋子、南 裕子

名誉会員

稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋みどり、川村佐和子、
小島 操子、小玉香津子、近藤 潤子、中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、
前原 澄子、松野かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、
(株)へるす出版

(以上、五十音順・平成29年10月31日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第37回学術集会会長 第38回学術集会会長 第39回学術集会会長
吉沢 豊予子 佐伯 由香 石垣 和子

社員

【北海道】

石垣 靖子
稲葉 佳江
大日向 輝美
河口 てる子
河原田まり子
荃津 智子
中村 恵子
松浦 和代
三国 久美
矢野 理香
山田 律子
良村 貞子

【東北】

朝倉 京子
一戸 とも子
遠藤 芳子
小野 幸子
工藤 せい子
佐藤 富美子
塩飽 仁
武田 淳子
武田 利明
原 玲子
布施 淳子
古瀬 みどり
眞壁 玲子
宮下 光令
吉沢 豊予子
吉田 俊子

【関東A】

飯田 苗恵
岩永 喜久子
上野 恭子
内田 陽子
角田 直枝
金子 昌子
加納 尚美
川口 孝泰
神田 清子
近藤 浩子
佐藤 正美
佐藤 由美
鈴木 純恵
中村 美鈴
成田 伸
春山 早苗

廣瀬 規代美
福島 道子
森 千鶴
横山 京子
吉田 久美子

【関東B】

青木 きよ子
荒木 暁子
荒木田美香子
石井 邦子
石橋 みゆき
太田 喜久子
大塚 眞理子
叶谷 由佳
黒田 久美子
黒田 裕子
酒井 郁子
坂上 明子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
田高 悦子
谷本 眞理子
手島 恵
長江 弘子
野地 有子
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
宮崎 美砂子
宮脇 美保子
森 恵美
吉田 千文

【東京A】

麻原 きよみ
泉 キヨ子
井上 智子
井部 俊子
及川 郁子
上別府 圭子
亀井 智子
萱間 眞美
齋藤 やよい
眞田 弘美
武村 雪絵
田代 順子
永田 智子

西村 ユミ
深堀 浩樹
堀内 成子
前田 樹海
丸 光恵

森田 夏実
山本 則子

【東京B】

秋山 正子
飯野 京子
柏木 公一
香春 知永
川野 雅資
北 素子
洪 愛子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
志自岐 康子
高田 早苗
武田 祐子
鶴田 恵子
野末 聖香
平野 かよ子
福井 トシ子
本庄 恵子
宮子 あずさ
守田 美奈子
吉田 みつ子
綿貫 成明

【甲信越】

浅川 和美
阿部 正子
遠藤 みどり
小林 たつ子
小林 康江
定方 美恵子
清水 嘉子
水野 恵理子
渡邊 タミ子
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
上野 栄一
川島 和代
紺家 千津子
須釜 淳子
平松 知子

牧野 智恵

【東海】

會田 信子
足立 はるゑ
足立 久子
天野 瑞枝
池松 裕子
太田 勝正
大津 廣子
大西 文子
岡田 由香
門間 晶子
勝田 仁美
鎌倉 やよい
紙屋 克子
北山 三津子
黒江 ゆり子
小松 万喜子
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
滝内 隆子
深田 順子
古田 加代子
本田 育美
村本 淳子
百瀬 由美子
柳澤 理子
山内 豊明
山田 紀代美

【近畿A】

青山 ヒフミ
阿曾 洋子
荒尾 晴恵
安藤 幸子
上野 昌江
江川 幸二
小笠原 知枝
北村 愛子
工藤 美子
グレッグ美鈴
河野 あゆみ
坂下 玲子
佐藤 禮子
清水 安子
鈴木 久美
鈴木 志津枝

高見沢恵美子
田中 京子
泊 祐子
檜木野 裕美
簀持 知恵子
早川 和生
林 優子
藤原 千恵子
法橋 尚宏
増野 園恵
町浦 美智子
松田 宣子
森 菊子
山本 あい子

【近畿B】

江川 隆子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
我部山キヨ子
河原 宣子
北島 謙吾
小板橋喜久代
田村 恵子
西田 直子
任 和子
野村 陽子
星野 明子
若村 智子

【中国・四国】

秋元 典子
池添 志乃
植田 喜久子
岡本 玲子
雄西 智恵美
掛田 崇寛
國方 弘子
小山 眞理子
佐伯 由香
島内 節
新道 幸恵
祖父江 育子
竹崎 久美子
田中 マキ子
近田 敬子
津島 ひろ江
時長 美希

中西 純子
中野 綾美
中山 洋子
西田 真寿美
乗松 貞子
深井 喜代子
藤田 佐和
保科 英子
南 裕子
宮腰 由紀子
宮下 美香
森本 美智子
森山 美知子
山勢 博彰

【九州・沖縄】

宇佐美しおり
宇都 由美子
浦田 秀子
大池 美也子
岡崎 美智子
奥 祥子
小野 ミツ
嘉手苺 英子
木下 由美子
金城 芳秀
国府 浩子
佐藤 香代
正野 逸子
田中 美智子
堤 由美子
寺町 芳子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
日高 艶子
藤崎 郁
藤田 君支
前田 ひとみ
松浦 賢長
松尾 ミヨ子
三重野 英子
村嶋 幸代

以上、264名
地区別
五十音順

(平成 29 年 10 月 31 日現在)

総務報告

1. 会員推移（平成29年4月1日～平成29年10月31日）

1) 正会員数増減

①平成29年4月1日正会員数

8,311名＝平成29年3月31日正会員数 8,791名 － 平成29年度資格喪失者 480名
 （自主退会267名、会費未納213名）

②平成29年度の入会者

804名＝新規入会740名 ＋ 再入会64名

③平成29年度の死亡喪失者 2名

④会員区分の変更 2名

（正会員から名誉会員1名、自主退会者から名誉会員1名）

2) 賛助会員増減

3) 名誉会員増減

平成29年度承認 増 2名 川村佐和子 小島操子
 減 2名 飯田 澄美子 日野原重明

4) 平成29年10月31日現在 会員数

正会員 9,112
 名誉会員 16
 賛助会員 5
 会員総数 9,133

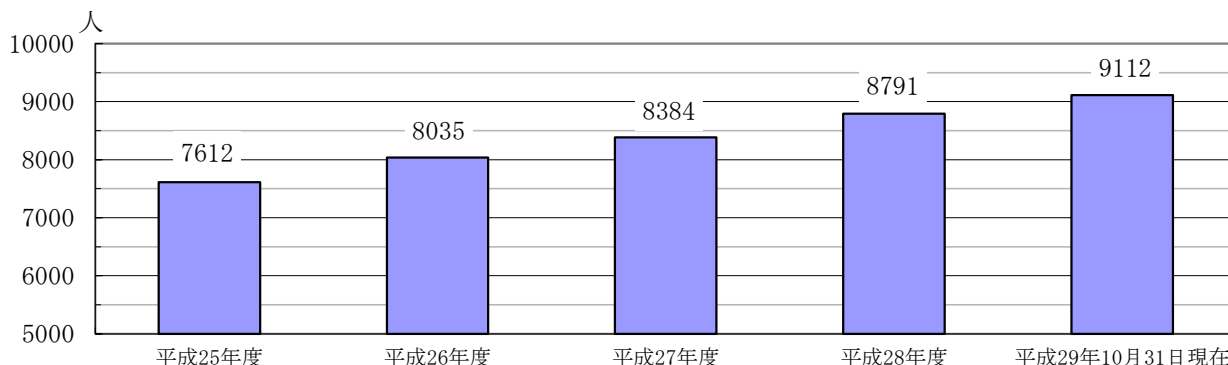
2. 地区別正会員数（平成29年10月31日 会員数 9,112名）

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 381	北海道	381	北陸	富山	52	九州・沖縄	福岡	448	
				石川	130		佐賀	49	
東北 574	青森	141	東海	福井	70		長崎	67	
				岩手	76		熊本	84	
				宮城	164		大分	60	
				秋田	69		宮崎	60	
				山形	69		鹿児島	52	
				福島	55		沖縄	97	
関東A 737	茨城	132	近畿A	大阪	546		宛先不明者		42
				栃木	117		合計	9,112	
				群馬	173				
				埼玉	315				
関東B 1000	千葉	439	近畿B	兵庫	536				
				神奈川	561	滋賀	110		
東京A 611	※1	611	中国・四国	京都	254				
				徳島	69				
東京B 723	※2	723		岡山	167				
				広島	275				
甲信越 297	新潟	112		山口	54				
				長野	106	香川	73		
				山梨	79	愛媛	85		
				高知	151				

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 12 月 15 日)

平成 29 年度第 1 回理事会

日 時：平成 29 年 5 月 12 日（日） 13：00～16：45

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長、選挙管理委員長

〈審議事項〉

1. 選挙報告
2. 第 37 回 日本看護科学学会学術集会(JANS37)の準備状況
3. 各委員会からの報告および審議事項
 - ・各委員会における平成 28 年度決算状況について
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会(山上の光賞推薦結果報告含む)
 - 10) 広報委員会
 - 11) 若手研究推進委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 他団体との連携について
 - ・日本看護系学会協議会(選挙管理委員推薦について)
 - ・看護系学会等社会保険連合(看保連)
4. 今期理事会の論点整理について
5. 名誉会員の推薦について
6. 平成 29 年 6 月定例社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
 - 1) 平成 29 年 6 月定例社員総会資料の確認
 - ・平成 28 年度事業報告の承認
 - ・平成 28 年度決算の承認
 - ・監査報告

・役員選任案の承認

2)進行分担表の確認

7. 規程及び申し合わせ事項の一部変更について

8. 入会希望者の承認

平成 29 年度第 2 回理事会

日 時：平成 29 年 6 月 18 日（日） 10：00～10：55

場 所：AP 東京八重洲通り 11 階 O ルーム

（東京都中央区京橋 1 丁目 10 番 7 号 KPP 八重洲ビル 11 階）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 平成 29 年 6 月定例社員総会議案について

1)平成 29 年 6 月定例社員総会資料の確認

・平成 29 年度収支予算の一部変更

・理事選任案の承認

・名誉会員の推薦

・今期理事会の論点整理

2)議事進行および役割分担の確認

2. 第 37 回 日本看護科学学会学術集会(JANS37)の準備状況

3. 各委員会からの審議事項

4. 入会希望者の承認

平成 29 年度臨時理事会

日 時：平成 29 年 7 月 17 日（月） 13：00～16：40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 37 回学術集会会長、第 38 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況

2. 第 38 回日本看護科学学会学術集会の準備状況

3. JANS 組織図と今期の取り組み、および厚生労働省からの依頼について

4. 今後の理事会日程の確認と平成 30 年 6 月定例社員総会日程について

5. 会務分掌案および委員の承認

6. 平成 29 年度予算・事業計画の確認

7. 各委員会からの報告(予算含む)および審議事項

1) 平成 29 年度 事業計画・収支予算

2) 平成 29 年度 各委員会予算・執行状況

8. 各委員会からの報告および審議事項
9. 入会希望者の承認
10. その他

平成 29 年度第 3 回理事会

日 時：平成 29 年 9 月 10 日（日） 13：00～17：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 8 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長、第 38 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 38 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 40 回日本看護科学学会学術集会（JANS40）会長の候補者選出
4. JANS 組織図について
5. 会計報告（各委員会予算執行状況）
6. 各委員会からの報告(予算含む)および審議事項
7. 災害看護支援事業および関連規程の改正
8. イノベーター・オブ・ザ・イヤーの推薦について
9. 12 月社員総会の招集及び議事次第(案)並びに欠席者の議決権行使方法の確認
10. 第 37 回学会総会の招集及び議事次第(案)の確認
11. 入会希望者の承認

平成 29 年度第 4 回理事会

日 時：平成 29 年 11 月 5 日（日） 13：00～17：25

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 15 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長、第 38 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 38 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 会計報告（平成 29 年度委員会活動費執行状況）
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 12 月社員総会の議案の承認および資料(案)、進行分担表の確認
 - 1) 平成 29 年度事業計画変更案の承認
 - 2) 平成 29 年度二次補正予算案の承認
 - 3) 平成 30 年度事業計画案の承認

- 4) 平成 30 年度予算案の承認
- 5) 第 40 回 日本看護科学学会学術集会(JANS40)会長の承認
6. 第 37 回学会総会の議案の承認および資料(案)、進行分担表の確認
7. 入会希望者の承認

平成 29 年度第 5 回理事会

日 時：平成 29 年 12 月 15 日（金） 14：00～16：00

場 所：TKP ガーデンシティ仙台 カンファレンスルーム 21F（宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1）

出席者：理事 15 名、監事 2 名、第 38 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第38回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 平成 29 年 12 月社員総会資料および進行分担表の確認
3. 第 37 回学会総会資料および進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 来年度の理事会日程について
6. 平成 29 年度決算に関する監事監査の日程について
7. 入会希望者の承認

公益社団法人日本看護科学学会 平成29年度委員会名簿

※所属機関名は9月10日現在の会員登録データに基づいています。

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
総務	委員長	田中真琴	東京医科歯科大学大学院
		西村ユミ	首都大学東京
		佐藤正美	東京慈恵会医科大学
和文誌編集	委員長	秋元典子	甲南女子大学
		佐伯由香	愛媛大学
		浅野みどり	名古屋大学大学院
		荒木暁子	公益社団法人日本看護協会
		石井範子	北海道科学大学
		和泉比佐子	神戸大学
		江川幸二	神戸市看護大学
		大塚真理子	宮城県立大学
		落合亮太	横浜市立大学院
		小野智美	岡山大学大学院
		片岡弥恵子	聖路加国際大学
		河野あゆみ	大阪市立大学大学院看護学研究科在宅看護学領域
		国府浩子	熊本大学大学院
		佐伯圭一郎	大分県立看護科学大学
		酒井明子	福井大学
		清水安子	大阪大学
		鈴木みずえ	浜松医科大学
		田中美智子	宮崎県立看護大学
		長谷川真澄	札幌医科大学
		春名めぐみ	東京大学大学院
		眞嶋朋子	千葉大学
		三木明子	筑波大学
		宮下光令子	東北大学
		森本美智子	岡山大学
		山本純子	甲南女子大学
		吉沢豊子	吉田北城大学
		吉田俊子	吉田北城大学
英文誌編集	委員長	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
		江藤宏美	長崎大学
		須釜淳子	金沢大学
		池田理恵子	岡山県立大学
		石川陽子	首都大学東京
		石原逸子	神戸市看護大学
		梅田麻希子	聖路加国際大学
		岡田彩子	兵庫県立大学
		加藤憲司	神戸市看護大学
		北岡和代	金沢市看護大学
		グレッグ美鈴	神戸市看護大学
		小林京子	聖路加国際大学
		小白石恵穂	大阪大学
		鈴木美穂	大阪大学
		月野木ルミ	日本赤十字看護大学
		永田智子	慶應義塾大学
		中西美昌	自京大
		野垣昌真	日本赤十字学
		深井喜代子	岡山大学
		法橋尚成	神聖加本
		堀内成子	聖加本
		前田ひとみ	熊松大
		丸山昭子	川大
		山崎あけみ	山崎あけみ

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
若手研究推進	委員長 會計	西村 工ミ	首都大学東京
		大久保 暢子	
利益相反	委員長	坂井 志織	国際大学
		坂梨 左織	
研究倫理審査	委員長 外部委員 外部委員 外部委員	長谷川 直人	岡医科大学
		丸尾 智実	
看護ケア開発・標準化委員会	委員長 理事 理事 外部委員 外部委員 外部委員	綿貫 成明	国立看護大学校
		水田 明子	
災害看護支援委員会	委員長	水野 恵理	山梨大学
		小山 眞理	
選挙管理	委員長 副委員長	中山 洋子	日本赤十字広島看護大学院
		麻原 きよみ	
研究倫理審査	委員長 外部委員 外部委員	山本 則子	東京大学大学院
		山宮 本有紀	
看護ケア開発・標準化委員会	委員長 理事 理事 外部委員 外部委員 外部委員	五本 嵐彦	東京大学大学院
		隈本 邦実	
災害看護支援委員会	委員長	戸塚 理緒	東海大学
		友納 理緒	
選挙管理	委員長 副委員長	真田 弘美	東京大学大学院
		鎌倉 やよ	
災害看護支援委員会	委員長	石橋 みゆ	日本赤十字豊田看護大学院
		須釜 淳子	
災害看護支援委員会	委員長	大田 えり	国際大学
		才藤 栄一	
災害看護支援委員会	委員長	中山 洋子	東京大学大学院
		山下 美千	
選挙管理	委員長 副委員長	高木 廣文	国立女子大学
		野口 美智代	
選挙管理	委員長 副委員長	岡美 佳代	日本赤十字豊田看護大学院
		桑名 佳啓	
選挙管理	委員長 副委員長	二宮 啓子	共立女子大学
		高野 美智代	

委員会活動報告

(平成 29 年 1 月～12 月)

(1) 総務委員会

- ・入会審査、会員データ管理
正会員数：9,112 名（平成 29 年 10 月 31 日現在）
会員マイページ利用による更新：2,615 件
（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 10 月 31 日）
メールアドレス登録状況：8,998 件（全会員の 98%）
- ・会員向け一斉メール配信状況の把握
- ・理事会、社員総会の議事録の確認
- ・事務所業務遂行状況確認（定期的な事務所訪問と職員面談の実施）
- ・内部管理に関する会計処理規程と事務処理規程の制定

(2) 和文誌編集委員会

- ・和文誌編集委員会を 2 回（平成 29 年 7 月 23 日、12 月 16 日）開催した。
- ・日本看護科学会誌第 37 巻（電子ジャーナル、平成 29 年 1 月～12 月）の発刊
随時掲載であり、論文公開時には会員に向け一斉メールで配信した。
- ・平成 29 年 1 月以降の投稿論文数：116 論文，採択論文数：45 論文（平成 29 年 10 月 27 日現在）
- ・学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の増加を図った。
- ・査読ガイドラインの一部改正および投稿論文チェックリストの一部改正を行った。
- ・電子投稿システムの一部変更を行った。著者宛コメントは添付ファイルにてアップロードするのではなく、直接システムに記入するように変更した（添付ファイルが著者に返却されておらず、後日、追送するなど対応する必要があったため）。
- ・新専任査読委員の依頼と決定（任期：平成 29 年 10 月 1 日～平成 31 年 9 月 30 日）
新専任査読委員：236 名，統計担当専任査読委員：26 名，総計：262 名
- ・表彰論文選考に参画
- ・和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラムとして、和文誌セミナー
「論文の作成・投稿のプロセスと査読のあり方」を平成 29 年 3 月 26 日(日) 13:30～16:30
アクア博多会議室 A（福岡県）で開催した。参加者数は 90 名であった。
- ・和文誌編集委員会企画の交流集会「JANS 和文誌の査読について考える」（於：第 37 回日本看護科学学会学術集会，仙台市）を開催する予定である（平成 29 年 12 月 16 日 10:10～11:30）。

(3) 英文誌編集委員会

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.14 のオンライン発刊
- ・平成 29 年 1 月以降の投稿論文数：243 論文（平成 29 年 8 月 31 日現在）

- JJNS セミナー の開催（平成 29 年 12 月 15 日）
 “Improving Your Success at Publishing in English 2017 : The Challenges of Being a Peer Reviewer for Journal Articles”
- 表彰論文選考に参画
- 若手研究者支援事業については、2 件の投稿があったが、1 件は条件を満たさず、もう 1 件は審査の結果、支援が可能な状況ではないという結論になった。
- 機関リポジトリに全文掲載をした場合、JJNS に出版できないことを Author Guidelines に明記した。
- JJNS セミナーおよび JANS37 で、JJNS 投稿コンサルテーションを実施した。
- 平成 28 年度の impact factor は、0.554 であった（平成 29 年 6 月発表による）。

(4) 研究・学術情報委員会

- 第 10 回 JANS セミナー開催（平成 29 年 6 月 18 日）
 テーマ：社会への貢献を組み立て実装する看護学研究
 参加人数：会場受講名（会員 109 名、非会員 3 名）、Web 受講 182 名（会員のみ）
- 調査研究事業「看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の設定および研究推進の Strategic Plan の設定」を実施した。JANS 会員および会員外有識者 10 名を対象にした、フォーカスグループインタビューと、JANS 社員および委員会委員全員を対象にデルファイ法による Web 調査により、看護学が今後優先して取り組むべき研究課題および整備すべき研究体制を挙げた。調査結果は JANS ウェブサイトに掲載している。
- JANS が所有している研究リソース(過去の報告書、セミナー資料、動画等)のアーカイブ化をすすめた。

(5) 国際活動推進委員会

- 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を行う（HP 維持管理含む）。
- JANS ホームページ内の異文化看護データベースの見直し作業については、科学研究費補助金「研究成果公開促進事業（データベース）」への応募が不採択になったため、新たな枠組みを検討し、データベース構築について取り組んでいる。

世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- 第 5 回 WANS 学術集会について WANS 事務局として開催を支援した。
- 第 5 回 WANS 学術集会は、Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC) と共同開催で、“TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017: Culture, Co-creation, and Collaboration for Global Health”と題して、2017 年 10 月 20 日～22 日に Thailand (Bangkok) において、Dr. Tassana Boontong を会長として開催され、910 人、14 ヶ国からの参加があった。参加者のうち、約半数は日本からであった。また、Conference では、WANS の 6 つの会員団体が Special Issues や Panel の Speaker としての役割を担った。
- WANS のホームページを更新するとともに、TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017 の広報活動を行った。

(6) 看護学学術用語検討委員会

- ・看護学を構成する重要な用語集(2011年)を見直し、修正を要する用語、統合可能な用語、不足している用語の検討を行った。
- ・上の検討結果ならびに平成28年度実施のWeb調査の結果に基づき、本委員会で検討する用語を選び、検討を行っている。
- ・検討プロセスを公開し、さらなる検討に向けての意見を求めるため、第37回日本看護科学学会学術集会にて交流セッションを実施する予定である。

(7) 看護倫理検討委員会

- ・個人情報保護法等の改正に伴う「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改正に関するパブリックコメントについて検討した。
- ・日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」および日本看護系学会協議会の見解を受けて「日本看護科学学会の見解」について検討した。それに伴い、日本看護科学学会科学者の行動規範の見直しを行った。

(8) 社会貢献委員会

- ・JANS37 市民フォーラム (12月17日)
「もし、あなたが認知症になったら ～自分らしく生きるために～」のテーマで企画・運営した。
当初、当事者によるフォーラムを計画していたが、日程の都合でキャンセルになり、講師を医療者に変更した。
- ・JANS37 ナーシング・サイエンス・カフェ (12月17日)
「コードブルー ～クリティカル現場で活躍する看護師たち～」を企画運営した。
社会貢献委員会の活動は、学術集会開催地の市民や生徒を中心としている。日本看護科学学会の活動として、学術集会開催地以外にも広く広報するには、今後、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェの動画配信の可能性について、広報委員会と検討していきたい。

(9) 表彰論文選考委員会

- ・学術論文優秀賞と学術論文奨励賞について、候補論文を審査・選考し、理事会にて承認を得た。

【優秀賞】

Construction and evaluation of FiND, a fall risk prediction model of inpatients from nursing data

Shinichiroh Yokota and Kazuhiko Ohe

Volume 13, Issue 2 (pages 247–255)

【奨励賞】

Random control trial of hot compresses for women those who used laxatives on severity of constipation and quality of life

Izumi Kira

Volume 13, Issue 1(pages 95–104)

(10) 広報委員会

・ JANS37 広報活動

学術集会の記録、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェのフライヤー作成

・ 学会 HP 内容の更新・整理

・ 他機関からのリンク依頼に関する基準の設置

・ JANS 研究論文を実践へトランスレーションする新企画の立案と着手

広く市民に向けて看護の知を普及させることを目的に、JANS で過去 5 年間に表彰を受けた研究論文を、著者自らがホームページ上で解説する企画を立案した。

ホームページ上のサイト名は「看護研究の玉手箱」とし、掲載を開始した。

(11) 若手研究推進委員会

・ 第 9 回 JANS セミナー開催（平成 29 年 3 月 19 日）

テーマ：看護研究にいかす統計学の基本

参加人数：会場受講 192 名（会員 163 名、非会員 29 名）、Web 受講 670 名（会員のみ）

・ JANS37 交流集会の企画・パネルディスカッションの企画

・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信

・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信

・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信

(12) 利益相反委員会

・ 今期の役員および各委員会委員の利益相反申告を実施した。

・ 和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施。

・ 第 37 回学術集會会長、各講演者および学術集會演題登録時の利益相反申告を実施した。

・ セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。

(13) 研究倫理審査委員会

- ・ 2 件の申請があり、簡易審査を行った。
- ・ 日本看護科学学会研究倫理審査委員会規程を改正した。

(14) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成 29 年度総会に出席した。

日時：平成 29 年 6 月 28 日（水）

場所：日本赤十字看護大学

議案：平成 28 年度活動報告、事業報告、平成 29 年度事業案・予算案について、平成 29 年度新役員および指名理事の承認

- ・ 世界防災フォーラム（ダボス会議）平成 29 年 11 月 25～28 日に連携協力により参加する。
- ・ 災害看護の学会連携への参加。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・ 第 2 回診療報酬あり方検討委員会・介護報酬あり方検討委員会合同会議が、平成 29 年 2 月 23 日（木）に開催された。
- ・ 第 2 回看護技術検討委員会が平成 29 年 3 月 6 日（月）に開催され、平成 30 年度改定に向けた医療技術提案書の検討等が行なわれた。
- ・ 平成 29 年度社員総会が平成 29 年 4 月 25 日（火）に開催され、活動報告と新役員の改選が行われた。総会終了後に看保連が支援した研究助成報告会があり、日本クリティカルケア看護学会、日本看護研究学会、日本手術看護学会、日本糖尿病教育・看護学会の 4 学会から研究成果報告があった。
- ・ 看保連平成 29 年度研究助成への応募 4 件を審査し、1 件を承認した。
- ・ 平成 29 年 11 月 7 日（火）第 7 回情報交換会が開催され、「成功事例から学ぶ！診療報酬改定に向けた活動の実際」と題し、糖尿病合併症管理料および糖尿病透析予防指導管理料（日本糖尿病教育・看護学会）排尿自立指導料（日本創傷・オストミー・失禁管理学会）に関する講演が行われた。

③ 日本学術会議

日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供

④ その他の機関

対応すべき事案はなかった。

(15) 選挙管理委員会

- ・ 理事候補者選挙を行った。

電子投票受付期間：平成 29 年 2 月 1 日（水）正午～26 日（日）23：59

開票：平成 29 年 2 月 27 日（月）午前 11 時より

- ・平成 29 年 2 月 27 日（月）第 2 回選挙管理委員会を開催した。
- ・平成 29 年 4 月 22 日（土）第 3 回選挙管理委員会を開催した。
理事候補者名簿の作成を行った。

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 29 年度事業計画変更（案）

(1) 看護ケア開発・標準化委員会

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。そのモデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014 に準拠した誤嚥性肺炎予防のための看護技術（看護ケア）の開発・標準化を目標とする。

- ・統括委員会およびガイドライン作成チームを結成する。
- ・スコープ作成、当該テーマの決定を行う。
- ・CQ の作成を行う。

(2) 災害看護支援委員会

- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討する。

平成29年度 二次補正収支予算書(案)
平成 29年 4月 1日 から平成30年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	平成29年度 一次補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		91,800,000	91,800,000	0
正会員会費収入		91,500,000	91,500,000	0
賛助会員会費収入		300,000	300,000	0
③学会誌収入		590,000	590,000	0
④寄附金・助成金収入(学術集會含まず)		0	0	0
⑤雑収入		5,496,000	5,496,000	0
受取利息収入		1,000	1,000	0
著作権料収入		250,000	250,000	0
セミナー収入		5,245,000	5,245,000	0
JANSセミナー		3,880,000	3,880,000	0
JJNSセミナー		1,365,000	1,365,000	0
その他雑収入		0	0	0
⑥学術集會収入		50,885,000	50,885,000	0
学術集會参加費収入		41,050,000	41,050,000	0
事前登録会員(10,000円)		17,000,000	17,000,000	0
事前登録非会員(12,000円税込)		6,000,000	6,000,000	0
事前登録学部生(3,000円税込)		30,000	30,000	0
当日登録会員(12,000円)		14,400,000	14,400,000	0
当日登録非会員(14,000円税込)		3,500,000	3,500,000	0
当日登録学部生(3,000円税込)		120,000	120,000	0
寄附金・助成金収入		0	0	0
広告販売収入		9,385,000	9,385,000	0
企業展示出展料		5,249,000	5,249,000	0
広告掲載料		2,840,000	2,840,000	0
スポンサードセミナー		1,296,000	1,296,000	0
懇親会収入		450,000	450,000	0
雑収入		0	0	0
事業活動収入合計(I a)		148,772,000	148,772,000	0
2. 事業活動支出				
①事業費支出		84,261,000	83,613,000	648,000
学会誌発行費支出		21,270,000	21,270,000	0
和文誌編集費支出		3,970,000	3,970,000	0
英文誌編集費支出		17,300,000	17,300,000	0
編集活動費支出		1,885,000	1,885,000	0
和文誌編集委員会費支出		700,000	700,000	0
英文誌編集委員会費支出		1,185,000	1,185,000	0
看護学術振興費支出		6,450,000	5,802,000	648,000
研究・学術情報委員会費支出		1,420,000	1,420,000	0
国際活動推進委員会費支出		2,195,000	2,195,000	0
看護学術用語検討委員会費支出		847,000	847,000	0
看護倫理検討委員会費支出		450,000	450,000	0
表彰論文選考委員会費支出		180,000	180,000	0
若手研究推進委員会支出		710,000	710,000	0
看護ケア開発・標準化委員会	※1	448,000	0	448,000
災害看護支援委員会支出	※2	200,000	0	200,000
研究学術活動支援費支出		5,550,000	5,550,000	0
受賞論文表彰費支出		185,000	185,000	0
研究倫理審査委員会費		120,000	120,000	0
利益相反委員会費支出		—	—	0
JANSセミナー開催費		3,880,000	3,880,000	0
JJNSセミナー開催費		1,365,000	1,365,000	0
社会的活動費支出		1,035,000	1,035,000	0
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		535,000	535,000	0
広報委員会費支出(公益目的事業分)		500,000	500,000	0
総務費支出		—	—	0
総務委員会費支出		—	—	0

科 目	備考	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	平成29年度 一次補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	差異
学術集会費支出		48,071,000	48,071,000	0
当年度開催学術集会		45,292,000	45,292,000	0
会場費支出		25,108,000	25,108,000	0
会議費支出		2,026,000	2,026,000	0
旅費交通費支出		1,710,000	1,710,000	0
消耗品費支出		747,000	747,000	0
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,313,000	1,313,000	0
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		5,628,000	5,628,000	0
委託費支出		6,650,000	6,650,000	0
人件費支出		21,000	21,000	0
謝金支出		984,000	984,000	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		305,000	305,000	0
懇親会運営費支出		800,000	800,000	0
次年度開催学術集会(準備期間)		2,779,000	2,779,000	0
会場費支出		0	0	0
会議費支出		40,000	40,000	0
旅費交通費支出		40,000	40,000	0
消耗品費支出		409,000	409,000	0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		947,000	947,000	0
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		608,000	608,000	0
委託費支出		519,000	519,000	0
人件費支出		216,000	216,000	0
謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		54,896,000	54,896,000	0
給料手当支出		22,200,000	22,200,000	0
福利厚生費支出		3,800,000	3,800,000	0
通勤費支出		1,700,000	1,700,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		400,000	400,000	0
社員総会費		4,000,000	4,000,000	0
理事会費		3,100,000	3,100,000	0
委託費支出		5,880,000	5,880,000	0
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出		380,000	380,000	0
通信運搬費支出		2,368,000	2,368,000	0
消耗品費支出		2,120,000	2,120,000	0
印刷製本費支出		82,000	82,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		735,000	735,000	0
賃借料支出		3,840,000	3,840,000	0
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		1,072,000	1,072,000	0
負担金支出		150,000	150,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
資格喪失者会費支出		—	—	0
雑支出		1,640,000	1,640,000	0
総務費支出		864,000	864,000	0
総務委員会費支出		35,000	35,000	0
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		370,000	370,000	0
選挙費用支出		350,000	350,000	0
事業活動支出合計(I b)		139,157,000	138,509,000	648,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)		9,615,000	10,263,000	△ 648,000

科 目	備考	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	平成29年度 一次補正予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）				
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）		350,000	350,000	0
退職給付引当資産取崩		1,500,000	1,500,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		0	0	0
投資活動収入合計（Ⅱa）		1,850,000	1,850,000	0
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金		1,500,000	1,500,000	0
退職給付引当金積立		680,000	680,000	0
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）		108,000	108,000	0
投資活動支出合計（Ⅱb）		2,288,000	2,288,000	0
投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）		△ 438,000	△ 438,000	0
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）		0	0	0
財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）		0	0	0
Ⅳ 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		6,177,000	6,825,000	
前期繰越収支差額		114,141,000	114,141,000	
次期繰越収支差額		120,318,000	120,966,000	

- ※1 委員会新設。研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化する。
- ※2 日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討する。

公益社団法人 日本看護科学学会 平成30年度事業計画（案）

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(1) 学術集会

- ・ 第38回日本看護科学学会学術集会準備
第38回学術集会会長：佐伯由香（愛媛大学）
日程：平成30（2018）年12月15日（土）・16日（日）
場所：ひめぎんホール
- ・ 第39回日本看護科学学会学術集会準備
第39回学術集会会長：石垣和子（石川県立看護大学）
日程：平成31（2019）年11月30日（土）・12月1日（日）
場所：石川県立音楽堂
- ・ 第40回日本看護科学学会学術集会準備

(2) 総務委員会

- ・ 入会審査を行う。
- ・ 会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービス（一斉メールの配信、学術集会・セミナー参加登録、Web選挙等）の充実を目指す。
- ・ 本会の目的を達成し、安定した事務所運営が可能な職員体制確立のため、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。各職員が現在の所掌業務に関するマニュアルを整備・見直すこと、現在の担当以外の仕事を経験する機会を設け、より一層の事務所機能の安定化、効率化を図る。
- ・ 事務所運営に関する課題発見、更なる充実のために月に1回訪問し、職員の向上心維持に努める。事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。

(3) 和文誌編集委員会

- ・ 日本看護科学会誌第38巻を発行する。
- ・ 査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。
- ・ 学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の掲載数増加を図る。
- ・ 和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（交流集会）を開催する。
- ・ 日本看護科学会誌への投稿に関する不正行為防止のためのガイドラインを作成する。

(4) 英文誌編集委員会

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol. 15 を発行する。
- ・ JJNS セミナー2018 を開催する。
- ・ JJNS プロモーション活動を実施する。
- ・ 若手研究者支援事業を実施する。

(5) 研究・学術情報委員会

- ・ Strategic Plan の実行に向けた事業
 - －看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の設定および研究推進の Strategic Plan の設定報告書作成と会員への周知
 - －Strategic Plan を実行するロードマップの作成（進捗状況＝研究の推進状況を可視化）
 - －研究者ネットワーク構築
- ・ 看護系学会、関連領域学会との連携事業(研究プロジェクト、セミナー等のイベント)の推進
- ・ 学術集会における国際シンポジウム、交流集会の開催
- ・ 研究助成、留学助成実施可能性の検討
- ・ 看護学研究者の研究能力向上のための事業
 - －JANS セミナー（6月総会時）の企画と開催
 - －教育資料(セミナー講義、資料)のアーカイブ化の継続

(6) 国際活動推進委員会

- ・ 平成 29 年度に引き続き JANS ホームページ内の「異文化看護データベース」を名称と内容を変更し、再構築することに取り組む。
- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局として 2019 年度に開催する学術集会の準備を進めるとともに、WANS の会員の拡大を図り、組織体制について検討する。また、WANS 事務局として HP の充実、維持管理を行う。
- ・ JANS 学術集会において交流集会を開催し、会員間の交流とネットワークづくりに取り組む。

(7) 看護学学術用語検討委員会

- ・ 看護学を構成する重要な用語集の一部改訂
 - 一般社会や当事者との協働をふまえた用語の検討
 - 看護実践を表す新しい用語の掘り起こし
 - 学術用語に関する調査より「検討してほしい」との意見のあった用語の検討

(8) 看護倫理検討委員会

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

(9) 社会貢献委員会

- ・第38回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。
- ・第38回学術集会での「市民フォーラム」および「ナーシング・サイエンス・カフェを開催する。
- ・JANSとしての社会貢献のあり方を検討する。

(10) 表彰論文選考委員会

- ・表彰論文の選考を行い公表する。

(11) 広報委員会

- ・学会広報媒体の作成・維持・管理(①HPの維持・管理 ②他委員会との連携による学会活動の広報 ③学会活動やイベント学術集会の記録④学会広報媒体の評価と改善)を行う。
- ・WANSに関連した広報(①WANS学術集会の広報 ②WANS学術集会におけるJANSの広報)を行う。
- ・学術集会に関する広報活動(次回学術集会企画委員会、社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動)を行う。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報(「看護研究の玉手箱」による表彰論文の紹介、JANS38における交流集会の開催)を行う。

(12) 若手研究推進委員会

- ・学術集会の交流集会、若手研究者のニーズに沿った研修を企画運営し、若手の研究活動推進に努める。
- ・国内外の多様な学問分野における若手研究者との交流を図る方法を検討し、システムを作る。
- ・「若手の会」専用のHP及びメーリングリストの管理・更新を通して、委員会の活動公表・周知のほか、若手研究者のニーズ把握、多様な学問分野の情報発信や情報交換、相互交流を行い、若手研究者の学際的な視点の涵養、研究発展の素地づくり、学び集う場の整備を促進する。
- ・各地域で「若手の会」の活動を牽引する「エリア・コーディネーター」を育成し、若手研究者が各地域で活躍できる基盤をつくる。

- ・未来の看護学および学術のあり方について、若手研究者の理念・思想を共有する場を設け、その発展に向けた提言を行う。

(13) 利益相反委員会

- ・役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。
- ・利益相反における問題が生じた折の対処をする。

(14) 研究倫理審査委員会

- ・申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。
- ・その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

(15) 看護ケア開発・標準化委員会

- ・システマティックレビューチームを結成する。
- ・システマティックレビューを行い、CQ ごとにレポートを作成する
- ・推奨度を検討し、ガイドライン草案を作成する。

(16) 災害看護支援委員会

- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討する。

(17) 他機関との連携

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 日本学術会議
- ③ 看護系学会等社会保険連合（看保連）

(18) 選挙管理委員会

- ・平成 31 年選出代議員選挙実施
- ・平成 31 年選出役員候補者選挙準備

平成30年度 収支予算書(案)
平成30年 4月 1日 から平成31年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成30年度 予算額 (H. 30. 4. 1~ H. 31. 3. 31)	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		0	1,000	△ 1,000
特定資産受取利息収入		0	1,000	△ 1,000
②会費収入		94,800,000	91,800,000	3,000,000
正会員会費収入	※1	94,500,000	91,500,000	3,000,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入		560,000	590,000	△ 30,000
④寄附金・助成金収入 (学術集会含まず)	※3	250,000	0	250,000
⑤雑収入		5,551,000	5,496,000	55,000
受取利息収入		1,000	1,000	0
著作権料収入		305,000	250,000	55,000
セミナー収入		5,245,000	5,245,000	0
JANSセミナー		3,880,000	3,880,000	0
JJNSセミナー		1,365,000	1,365,000	0
その他雑収入		0	0	0
⑥学術集会収入		43,468,000	50,885,000	△ 7,417,000
学術集会参加費収入		32,070,000	41,050,000	△ 8,980,000
事前登録会員 (10,000円)		13,500,000	17,000,000	△ 3,500,000
事前登録非会員 (12,000円税込)		4,800,000	6,000,000	△ 1,200,000
事前登録学部生 (3,000円税込)		90,000	30,000	60,000
当日登録会員 (12,000円)	※4	10,680,000	14,400,000	△ 3,720,000
当日登録非会員 (14,000円税込)		2,940,000	3,500,000	△ 560,000
当日登録学部生 (3,000円税込)		60,000	120,000	△ 60,000
寄附金・助成金収入		750,000	0	750,000
広告販売収入		9,688,000	9,385,000	303,000
企業展示出展料		4,104,000	5,249,000	△ 1,145,000
広告掲載料		2,560,000	2,840,000	△ 280,000
スポンサーードセミナー		3,024,000	1,296,000	1,728,000
懇親会収入		960,000	450,000	510,000
雑収入		0	0	0
事業活動収入合計 (I a)		144,629,000	148,772,000	△ 4,143,000
2. 事業活動支出				
①事業費支出		82,358,000	84,261,000	△ 1,903,000
学会誌発行費支出		22,820,000	21,270,000	1,550,000
和文誌編集費支出	※5	5,250,000	3,970,000	1,280,000
英文誌編集費支出	※6	17,570,000	17,300,000	270,000
編集活動費支出		2,135,000	1,885,000	250,000
和文誌編集委員会費支出	※7	950,000	700,000	250,000
英文誌編集委員会費支出		1,185,000	1,185,000	0
看護学術振興費支出		6,570,000	6,450,000	120,000
研究・学術情報委員会費支出	※8	1,736,000	1,420,000	316,000
国際活動推進委員会費支出	※9	1,715,000	2,195,000	△ 480,000
看護学術用語検討委員会費支出		847,000	847,000	0
看護倫理検討委員会費支出		535,000	450,000	85,000
表彰論文選考委員会費支出		190,000	180,000	10,000
若手研究推進委員会支出		740,000	710,000	30,000
看護ケア開発・標準化委員会	※10	607,000	448,000	159,000
災害看護支援委員会支出		200,000	200,000	0
研究学術活動支援費支出		5,579,000	5,550,000	29,000
受賞論文表彰費支出		207,000	185,000	22,000
研究倫理審査委員会費		127,000	120,000	7,000
JANSセミナー開催費		3,880,000	3,880,000	0
JJNSセミナー開催費		1,365,000	1,365,000	0
社会的活動費支出		1,565,000	1,035,000	530,000
社会貢献委員会支出 (市民フォーラム開催費含む)		535,000	535,000	0
広報委員会費支出 (公益目的事業分)	※11	1,030,000	500,000	530,000

科 目	備考	平成30年度 予算額 (H. 30. 4. 1~ H. 31. 3. 31)	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	差異
学術集会費支出		43,689,000	48,071,000	△ 4,382,000
当年度開催学術集会	※12	40,689,000	45,292,000	△ 4,603,000
会場費支出		17,646,000	25,108,000	△ 7,462,000
会議費支出		434,000	2,026,000	△ 1,592,000
旅費交通費支出		970,000	1,710,000	△ 740,000
消耗品費支出		1,457,000	747,000	710,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,893,000	1,313,000	580,000
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		5,490,000	5,628,000	△ 138,000
委託費支出		9,807,000	6,650,000	3,157,000
人件費支出		492,000	21,000	471,000
謝金支出		300,000	984,000	△ 684,000
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		500,000	305,000	195,000
懇親会運営費支出		1,700,000	800,000	900,000
次年度開催学術集会(準備期間)	※13	3,000,000	2,779,000	221,000
会場費支出		0	0	0
会議費支出		120,000	40,000	80,000
旅費交通費支出		490,000	40,000	450,000
消耗品費支出		332,000	409,000	△ 77,000
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		994,000	947,000	47,000
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		597,000	608,000	△ 11,000
委託費支出		300,000	519,000	△ 219,000
人件費支出		167,000	216,000	△ 49,000
謝金支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		61,641,000	54,896,000	4,745,000
給料手当支出	※14	22,800,000	22,200,000	600,000
福利厚生費支出		4,000,000	3,800,000	200,000
通勤費支出		1,900,000	1,700,000	200,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※15	400,000	400,000	0
社員総会費		3,960,000	4,000,000	△ 40,000
理事会費		3,405,000	3,100,000	305,000
委託費支出	※16	5,870,000	5,880,000	△ 10,000
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※17	620,000	380,000	240,000
通信運搬費支出	※18	2,500,000	2,368,000	132,000
消耗品費支出	※19	1,228,000	2,120,000	△ 892,000
印刷製本費支出	※20	14,000	82,000	△ 68,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		738,000	735,000	3,000
賃借料支出	※21	3,770,000	3,840,000	△ 70,000
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※22	1,072,000	1,072,000	0
負担金支出	※23	150,000	150,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出	※24	1,800,000	1,640,000	160,000
総務費支出		4,849,000	864,000	3,985,000
総務委員会費支出		20,000	35,000	△ 15,000
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)	(※11)	20,000	370,000	△ 350,000
選挙費用支出	※25	4,700,000	350,000	4,350,000
その他の支出		2,000,000	0	2,000,000
資格喪失者会費支出	※26	2,000,000	0	2,000,000
事業活動支出合計(I b)		143,999,000	139,157,000	4,842,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)		630,000	9,615,000	△ 8,985,000

科 目	備考	平成30年度 予算額 (H. 30. 4. 1～ H. 31. 3. 31)	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）				
1. 投資活動収入（各種立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）	※25	4,700,000	350,000	4,350,000
退職給付引当資産取崩		300,000	1,500,000	△ 1,200,000
長期前払費用振替収入（事務所更新料）	※27	108,000	0	108,000
投資活動収入合計（Ⅱa）		5,108,000	1,850,000	3,258,000
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金	※28	2,000,000	1,500,000	500,000
退職給付引当金積立		690,000	680,000	10,000
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）		0	108,000	△ 108,000
投資活動支出合計（Ⅱb）		2,690,000	2,288,000	402,000
投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）		2,418,000	△ 438,000	2,856,000
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）		0	0	0
財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）		0	0	0
Ⅳ 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		48,000	6,177,000	
前期繰越収支差額		120,318,000	114,141,000	
次期繰越収支差額		120,366,000	120,318,000	

- ※1 平成30年4月1日時点での会員数を9,000名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者400名と見積もり、合計9,450名分を会費収入として計上。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口5万円。
- ※3 W I L E Y (JINS出版社)より寄附。(著作者養成の取り組みに対する寄附金)
- ※4 第38回学術集会の参加費。
- ※5 投稿論文数の増加により、オンライン査読システム使用料、編集事務費を増額している。
- ※6 投稿論文数の増加により、出版料金を増額している。英文誌編集長謝金（旅費交通費を含め年間260万円）。
- ※7 委員交代により旅費交通費を増額している。
- ※8 第38回学術集会の交流集会に海外講師を招聘予定のため旅費交通費を増額している。
- ※9 世界看護科学学会（WANS）の開催年度ではないため旅費が減少している。
- ※10 委員会の開催数増加にともない旅費交通費を増額している。
- ※11 【広報委員会の活動費のうち、公益目的事業（市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェなど）に携わる費用を事業費に計上している。2017年度は委員会開催費（交通費）を管理費に計上していたが、委員会開催目的が主に公益目的事業のため、2018年は事業費に計上したことにより増加している。委員会開催費（会議費）は管理費に計上している。】
- ※12 第38回学術集会にかかわる開催年度の費用。
- ※13 第39回学術集会にかかわる開催前年度の費用。
- ※14 正職員5名、パート2名（週1～3日勤務）の給与・賞与および、社会保険料、健康診断料など。
- ※15 定例理事会6回（5月、6月、9月、10月、12月、2月）、社員総会2回（6月・12月/民間会議場使用）、学会総会1回（12月/学術集会の会場を使用）。理事交代にともない交通費を増額している。
- ※16 【法人として必要】
会計事務所（131万円）＜会計顧問料（77万）、内閣府提出書類作成料（11万）、社会保険労務士（43万円）＞、公認会計士監査報酬（36万円）、顧問弁護士（39万円）
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料（213万円）＜基本利用料（103万）、会費コンビニ決済機能（24万）、学術集会参加登録・行事管理機能（72万）、アンケート機能（14万）＞、JANSホームページ年間維持更新管理料（55万円）、ホームページ英訳費用（32万円）、Web会議システムV-CUBE（49万円）、封入委託費（11万円）
【事務所運営費】
事務所警備委託費（21万円）
- ※17 事務所職員の出張に伴う交通費。第38回学術集会は愛媛開催のため、前年度（仙台開催）より増額している。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。
- ※18 会員の増加および、郵便料金・宅配料金の値上がりなど通信料金の値上がりのため増額している。
- ※19 事務所内OA機器と備品の有効活用、事務用品使用の合理化などにより減額している。
- ※20 理事長の交替年ではないため挨拶状にかかわる費用分を減額している。
- ※21 事務所賃借料、コピー機リース料、紙折り機リース料。
- ※22 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税約7万円（均等割分のみ）。消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）に係る消費税（本則課税方式）。
- ※23 日本看護系学会協議会（JANA）8万円、看護系学会等社会保険連合（看保連）7万円。

- ※24 会員増加見込みにより会費払込などの手数料を増額している。職員研修費を含む。
- ※25 代議員選挙、役員選挙にかかわる費用。
- ※26 活動経費支出ではないが、会費の未納により収入が減少するため費用に計上している。決算時に正味財産増減計算書にも表示される。
- ※27 事務所契約更新料(賃借料)のうち発生主義の原則に基づき前年に「長期前払費用」として繰延べていた部分に戻している。
- ※28 選挙費用に充当するための積立金。平成30年度の選挙にかかる費用(470万円予算)に充当する金額を毎年積立している。平成29年度末の積立残高は300万円である。

平成30年度 収支予算書 (案)

平成30年4月1日から平成31年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					47,250,000	47,250,000				47,250,000	94,500,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		560,000				560,000					560,000
学術集会参加費			32,070,000			32,070,000					32,070,000
広告販売収入							9,688,000		9,688,000		9,688,000
寄付金・助成金		250,000	750,000			1,000,000					1,000,000
雑収益											
受取利息										1,000	1,000
著作権料		305,000				305,000					305,000
懇親会収入										960,000	960,000
セミナー収益	3,880,000	1,365,000				5,245,000					5,245,000
その他の雑収入											
経常収益計	3,880,000	2,480,000	32,820,000		47,550,000	86,730,000	9,688,000		9,688,000	48,211,000	144,629,000
① 事業費											
学会誌発行費		22,820,000				22,820,000					22,820,000
受賞論文表彰費		207,000				207,000					207,000
助成金											
会場費	1,291,000	400,000	17,337,669	100,000		19,128,669	308,331		308,331		19,437,000
会議費	285,000	260,000	544,320	41,000		1,130,320	9,680		9,680		1,140,000
旅費交通費	4,591,349	1,539,365	1,580,521	663,619		8,374,854	30,590	5,079	35,669		8,410,523
消耗品費	440,711	157,581	2,046,978	95,091		2,740,361	41,319	10,060	51,379		2,791,740
通信運搬費	897,376	269,375	3,425,393	145,722		4,737,866	70,926	20,481	91,407		4,829,273
印刷製本費	743,485	171,341	5,983,938	170,172		7,068,936	106,474	115	106,589		7,175,525
委託費	3,471,338	1,162,054	11,489,591	182,135		16,305,118	48,090	48,090	96,180		16,401,298
諸謝金	497,000	550,000	300,000	230,000		1,577,000					1,577,000
雑費	575,110	232,350	915,226	45,120		1,767,806	23,484	14,747	38,231		1,806,037
賃借料	938,543	360,978	887,967	46,329		2,233,817	30,886	30,886	61,772		2,295,589
租税公課	101,368	88,040	454,398			643,806	392,221		392,221		1,036,027
通勤手当	473,005	181,925	447,517	23,349		1,125,796	15,566	15,566	31,132		1,156,928
退職給付費用	171,776	66,068	162,519	8,479		408,842	5,653	5,653	11,306		420,148
福利厚生費	995,801	383,001	942,140	49,155		2,370,097	32,770	32,770	65,540		2,435,637
光熱水料費	183,725	70,664	173,825	9,069		437,283	6,046	6,046	12,092		449,375
修繕費	12,448	4,788	11,777	613		29,626	410	410	820		30,446
火災保険料	21,161	8,139	20,020	1,045		50,365	696	696	1,392		51,757
減価償却費	135,273	52,271	125,914	6,672		320,130	4,446	4,544	8,990		329,120
給料手当(委員会等人件費含む)	6,266,068	2,283,103	6,029,200	320,184		14,898,555	186,790	186,790	373,580		15,272,135

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
懇親会費										1,700,000	1,700,000
学会総会費										400,000	400,000
社員総会費										3,960,000	3,960,000
理事会費										3,405,000	3,405,000
会場費											
会議費										94,000	94,000
旅費交通費										952,477	952,477
消耗品費										480,260	480,260
通信運搬費										2,933,727	2,933,727
印刷製本費										5,475	5,475
委託費										3,905,702	3,905,702
諸謝金										50,000	50,000
雑費										711,963	711,963
租税公課										35,973	35,973
通勤手当										743,072	743,072
退職給付費用										269,852	269,852
福利厚生費										1,564,363	1,564,363
光熱水料費										288,625	288,625
賃借料										1,474,411	1,474,411
修繕費										19,554	19,554
火災保険料										33,243	33,243
減価償却費										219,834	219,834
渉外費										30,000	30,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										150,000	150,000
支払寄付金											
給料手当（委員会等人件費含む）										8,916,865	8,916,865
経常費用計	22,091,537	31,268,043	52,878,913	2,137,754		108,376,247	1,314,378	381,933	1,696,311	32,394,396	142,466,954
当期経常増減額	-18,211,537	-28,788,043	-20,058,913	-2,137,754	47,550,000	-21,646,247	8,373,622	-381,933	7,991,689	15,816,604	2,162,046
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					7,986,800	7,986,800	-7,986,800	0	-7,986,800		
税引前当期一般正味財産増減額	-18,211,537	-28,788,043	-20,058,913	-2,137,754	55,536,800	-13,659,447	386,822	-381,933	4,889	15,816,604	2,162,046
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	-18,211,537	-28,788,043	-20,058,913	-2,137,754	55,536,800	-13,659,447	316,822	-381,933	-65,111	15,816,604	2,092,046

- 注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。
- 注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。
- 注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」は本予算書には算入しない。
- 注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

第 40 回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

- ・ 第 40 回（平成 32 年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者
萱間 真美（聖路加国際大学）